

## にぎわい創出施設に関するサウンディング型市場調査結果の公表について

市が整備を予定している「図書館機能を核としたにぎわい創出施設」について、施設の管理運営のあり方、提供コンテンツとその市場性、採算性などにおける民間からの自由な提案、アイデアを幅広く求めることにより、民間活力の効果的な活用につなげていくため、事業者の皆様との対話を実施しましたので、その結果を公表いたします。

### 1 スケジュール

令和3年11月8日	実施要領の公表
令和3年12月16日、17日、20日	対話の実施

### 2 参加事業者

5者

### 3 主な意見

対話項目	主な意見
<b>1 にぎわい創出施設において展開する事業について</b>	
(1) 施設の管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的な管理を実現する上では、空間整備と管理運営を一体的に検討する必要があると考える。</li> <li>・管理スペースの集約や、各スペースの利用者層と利用時間帯を想定した空間の使い分け、セキュリティのあり方を検討する必要があると考える。</li> <li>・施設運用時のメンテナンスコストの低減に配慮した設計を検討する必要があると考える。</li> </ul>
<b>(2) 施設の運営またはコンテンツの提供</b>	
サードプレイス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民が交流するスペースなどを設けて施設のにぎわいを創出するとともに、カフェスペースを併設して市民がくつろげる空間を演出することが考えられる。</li> </ul>
まちなかライブラリー機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蔵書は、全て開架とした館内閲覧のみとすることが考えられる。</li> <li>・駅前立地の利便性を考慮すれば、中央図書館と連携した予約資料の受取・貸出サービスの付加も考えられる。</li> </ul>
まちなかグローアップ機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童書コーナーとキッズスペースを融合して、遊び場空間での絵本の読み聞かせなど、「遊びと学び」を一体化したワークショップなども行える空間を創出することが考えられる。</li> <li>・立体大型遊具は施設のシンボル性を高める。一方で遊ぶ年齢層が限定されるため、幅広い子どもの「遊びと学び」に対応するためのイベントプログラムの提供も重要である。</li> <li>・親子や親同士がゆったり過ごせる空間の創出も必要であると考えられる。</li> </ul>

対話項目	主な意見
<b>(2) 施設の運営またはコンテンツの提供（続き）</b>	
まちなかラーニング機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中高生に対して放課後の居場所や自主学習のためのスペースを提供することが必要であるとする。</li> <li>・スタジオや会議スペースなどを設置することが考えられる。</li> <li>・スタジオなどを幅広い世代が多様な用途で活用できるようにするためには、遮音性能や、工房的な用途に対応することも想定した設備等の確保も求められる。</li> </ul>
まちなかスポーツ機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サードプレイスや多目的スペースを活用した健康増進イベントなどの開催が考えられる。</li> <li>・フィットネス系遊具の導入などで、楽しく健康づくりが行える機会の提供が考えられる。</li> <li>・eスポーツの練習やイベント開催の場などを設けることで、若い世代の利用を促すことができる。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フリーWi-Fiと電源席を整備することが必要であるとする。</li> <li>・VR、AR等のデジタル技術を常設する場合は、維持や陳腐化抑制への対応に配慮する必要があるとする。</li> <li>・遊具の導入については、定期的な消耗品の入替や追加購入、大型遊具のメンテナンスのほか、安全管理に配慮する必要があるとする。</li> </ul>
<b>(3) 施設の規模・ゾーニング</b>	
①規模・ゾーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設内の諸機能の融合性に配慮したゾーニングや空間の可動性を実現する工夫によって、提供サービスの幅広い展開が可能になると考えられる。</li> <li>・図書閲覧空間と、子どもの遊び場や市民活動の場など音が発生する空間を分けるなど、各々が快適に利用できるよう館内の静と動のゾーニングに配慮することが必要であるとする。</li> <li>・イベント等の活動を継続的に行っていく上では、倉庫等のスペースを相応に確保することが必要であるとする。</li> </ul>
②空間の高さを利用した運用方法や、複数階に配置できる場合の運用方法のアイデア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現時点での計画における階高から想定される3階部分の天井高で、諸機能において想定される各種の活動には概ね対応可能であると思われる。</li> <li>・3階の一部を吹抜けにして4階の屋上緑化部分と縦につなげることで、魅力的な空間を創出することも考えられる。</li> </ul>
<b>(4) コストに関する条件</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の規模は、用途によっては常駐スタッフの配置人数ひいては人件費にも影響する。</li> <li>・デジタル技術による図書館サービスの自動化の導入にあたっては、導入した場合の運用費と、導入しない場合にかかる人件費等、総合的に判断する必要があるとする。</li> <li>・イベントなどの開催においては、利用者負担、行政負担のあり方も考慮する必要があるとする。</li> </ul>

対話項目	主な意見
<b>2 にぎわい創出に期待される効果について</b>	
(1) 地域の拠点形成への寄与	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サードプレイスや施設内外でのイベントを定期的で開催することで、施設に行く機会を増やしてにぎわい拠点の形成に寄与できる。</li> <li>・ 子どもの成長サイクルで施設との関わりが変化するような様々な体験活動を提供する場が実現できると、長期にわたって支持される施設になる。</li> </ul>
(2) 複合機能や地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設が提供するコンテンツに関して、地域と連携する仕組みづくりやイベントの開催によって地域の関係者、企業、商店街などを巻き込んでいくことが考えられる。</li> </ul>
(3) 広場的空間との一体的利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ まちなかグローアップやまちなかスポーツに係るイベント等の活動の場としての展開が考えられる。</li> <li>・ セキュリティゲートの配置の仕方によって、屋上を図書持ち出し可能なエリアに設定することもできる。</li> </ul>
<b>3 事業への参入条件</b>	
(1) 事業手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定管理者制度での参画を望む事業者が5者中4者。</li> <li>・ 業務委託方式での参画を望む事業者が5者中1者。</li> </ul>
(2) 業務発注の形態及び事業参画の時期	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 設計段階からの関与を望んでいる。理由としては、運営者が効率よく人員配置ができる空間設計や、サービス提供をしやすい動線計画など、運営を重視した内装設計が可能であることなど。</li> </ul>
(3) その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カフェについて、3階では立地条件的に難しい場合がある。</li> </ul>